

『 Nボックス 六訂 公衆栄養学〔第4版〕 』
補 遺

●161頁 【例題2】を以下に差し替える。

【例題2】C市では住民の野菜摂取量を増やす目的で、A地区を食環境整備の介入群として、野菜メニューを低価格で提供する外食・中食の協力店舗を増やした。介入前後の住民の野菜摂取量の変化量について、食環境整備を行わなかったB地区とともに調査した（表7-12）。A地区の介入効果について検証しなさい。

表7-12 A地区とB地区
の野菜摂取量の変化量*

	変化量の 平均値（g）	95%信頼区間
A地区	70	60～75
B地区	－10	－8～15

*変化量＝介入後の摂取量－介入前の摂取量

【解 説】帰無仮説は介入前後の野菜摂取量に差がない＝0となる。
95%信頼区間が0をまたがないことを確認する。

【解 答】A地区の野菜摂取量は介入後に1日平均70g増加し、介入効果が統計学的に有意に認められた。
一方のB地区の野菜摂取量は、統計学的に有意な差ではないが平均10g減少した。